

2003年度活動ハイライト

紙パックの回収率

紙パック全体の回収率は31.1%。リサイクルされる容器は増加傾向に。

全国牛乳容器環境協議会では、紙パックリサイクルに関する情報の収集・提供を目的に、平成7年から「飲料用紙容器（紙パック）リサイクルの現状と動向に関する基本調査」^{※1}を実施しています。平成14年度のリサイクル実態調査は、平成15年5月～11月に実施いたしました。

※1) 平成14年度調査では、紙容器メーカー8社・飲料メーカー372社・小学校2,300校・1,300市町村・製紙メーカー57社を調査対象としました。
 ※2) 本調査では紙パックの製造工程と飲料充填工程で発生した不良原紙、端材、在庫処分品などの使用されない紙パックを損紙、または産業損紙と呼んでいます。
 ※3) 本調査では、店舗、事業所、学校、家庭などで発生した紙パックを古紙と呼んでいます。さらに、古紙の中でも、飲料メーカーが主に学校から引き取った使用済み紙パックと主に店舗や事務所から返品として戻された飲料の紙パックを、産業古紙と呼んでいます。

本調査の結果では、紙パックの回収率は産業損紙^{※2}と産業古紙^{※3}を含む回収率が31.1%、そのうち主に一般家庭で回収される家庭系紙パックの回収率が23.2%で、これは前年の調査よりどちらもおよそ1ポイントずつ増加する結果となりました。

平成14年度の紙パックの回収率

紙パック回収率(産業損紙・産業古紙を含む)

31.1%

=製紙メーカー国内回収量÷紙パック原紙国内使用量
=72,505トン÷232,936トン

うち家庭系紙パック回収率

23.2%

=家庭系紙パック回収量÷紙パック家庭系出荷量
=39,914トン÷171,840トン

回収紙パックは有価で取引されています。

紙パックは紙質がよいため、他の古紙より比較的高値で取引されています。アンケート調査の結果でも有価物として扱っているケースがほとんどでした。市町村回収に関しては、紙パック単独の取引価格を設定していると回答のあった257件のうち、236件が有価で取引されています。

2002年の主な海外の飲料用紙パックのリサイクル率(参考)(%)

	マテリアルリサイクル	サーマルリサイクル (エネルギー回収)	計
オーストリア	30	34	65
ベルギー	65	9	74
デンマーク	0	100	100
フィンランド	15	46	61
フランス	17	30	47
ドイツ	65	15	80
ギリシャ	0	0	0
アイルランド	0	0	0
イタリア	7	29	35
ルクセンブルグ	66	0	66
オランダ	4	96	100
ポルトガル	5	47	52
スペイン	23	18	41
スウェーデン	44	38	82
イギリス	0	9	9
ノルウェー	43	17	60
スイス	0	100	100
平均	27	30	56

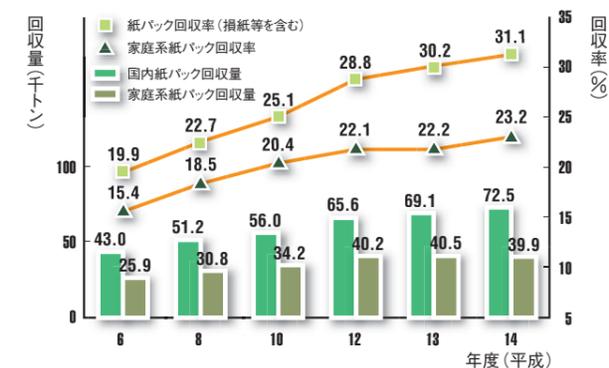
※小数点以下四捨五入の関係上、オーストリアとイタリアの計と平均計に違いが生じています。
 ※データ提供/ACE(The Alliance for beverage Cartons and the Environment)
 マテリアルリサイクルとは
 紙パックを再生紙にして別の製品にして再利用するリサイクル方法です。
 サーマルリサイクルとは
 使用済みの紙パックを燃料として利用するリサイクル方法です。

年々、着実に増える回収率。リサイクル活動が拡大している証です。

右図と下の表は調査開始の平成6年度以降の推移を表したものです。行政による回収が本格化したこともあって、紙パックのリサイクル活動は着実に拡大しており、回収率も堅調に伸びていることがうかがえます。

特に平成14年度は、飲料メーカーからの紙パックの出荷量は前年度比2.5%の減少となっているにもかかわらず、使用済みの国内紙パック受入量が3.4千トン、前年度比で4.9%増加しているのは特筆すべき点です。

紙パックの回収量・回収率の推移



主要データの推移(千トン)

区分	平成6年度	平成8年度	平成10年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	前年度比
飲料用紙パック原紙使用量(A)	216.0	225.6	223.4	228.0	229.1	232.9	1.7%
紙パックメーカー産業損紙発生量	16.5	24.1	21.0	21.0	22.4	26.4	17.9%
飲料メーカー産業損紙発生量	—	—	—	—	2.7	4.1	51.8%
飲料用紙パック出荷量	197.9	201.5	202.2	204.1	203.2	198.2	-2.5%
家庭系(B)	168.7	166.4	167.8	182.2	182.7	171.8	-6.0%
自販機・飲食店等(事業系)	18.5	23.1	21.3	10.7	11.0	16.5	50.0%
学乳(事業系)	10.7	12.0	12.9	11.2	9.5	9.9	4.2%
家庭系紙パック回収量(C)	25.9	30.8	34.2	40.2	40.5	39.9	-1.5%
店頭回収量	13.8	16.4	16.6	18.8	18.5	18.8	1.6%
市町村回収量	4.3	5.3	8.1	12.0	12.0	12.0	0.0%
集団回収量	7.8	9.1	9.5	9.4	10.0	9.1	-9.0%
事業系紙パック回収量(D)	17.1	20.4	21.8	25.4	28.6	32.6	14.0%
紙パック産業損紙回収量	16.5	19.6	20.0	20.7	22.2	26.4	18.9%
飲料メーカー産業損紙・古紙回収量	—	—	0.4	1.3	1.6	2.1	31.3%
学乳パック回収量	0.6	0.8	1.4	3.4	4.8	4.1	-14.6%
製紙メーカー国内紙パック受入量(E)	43.0	51.2	56.0	65.6	69.1	72.5	4.9%
紙パック古紙輸入量(F)	—	—	—	13.6	9.6	7.2	-25.0%
製紙メーカー紙パック受入量(G)	43.0	51.2	56.0	79.2	78.7	79.7	1.3%
紙パック再資源化量(H)	30.1	35.8	39.2	55.4	60.6	61.7	1.8%
紙パック回収率(損紙含む)(E)/(A)	19.9%	22.7%	25.1%	28.8%	30.2%	31.1%	+1.0P
家庭系紙パック回収率(C)/(B)	15.4%	18.5%	20.4%	22.1%	22.2%	23.2%	+1.1P

※(E)=(C)+(D)、(G)=(E)+(F)、(H)=(G)×(歩留率)歩留率は調査結果等より求めています。 ※平成8年度までの産業損紙発生量にはアルミつき紙パックを含んでいます。 ※平成10年度の産業損紙廃棄処分量には熱回収量を含んでいます。 ※平成12年度までの再生紙の歩留率は70%、平成13年度以降はアンケート調査により求めています。 ※数値を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。 ※(E)、(G)で「製紙メーカー」と表記しているが昨年度までは「再生紙メーカー」と表記していました。 ※学乳パック回収量は平成13年度より0.7千トン(14.6%)減少していますが、これは今年度行ったアンケート調査方法等の変更によるもので、平成14年度の数値がより現実に近い値となっています。

2003年度活動ハイライト

平成14年度紙パックマテリアルフロー

平成14年度の飲料用紙パックリサイクルの全体像をマテリアルフローで示したものです。

※単位：千トン
 ※（）内は13年度推計値です。
 ※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

